

シリア難民テントで迎える寒い冬、食糧も不足

「お肉やお魚なんて買えるはずないわ。野菜や果物すら食べていないんだから……」。レバノン北東部の難民キャンプに住む、赤ちゃんを抱えたお母さんが涙目になりながら話してくれました。

レバノンの北東部、シリアとの国境近くに位置するバアルベック・ヘルメール県アールサール市には、現在約3万3000人のシリア難民が滞在しています。シリア難民は収入を得る手段がなく、国連機関やNGOからの食糧支援を頼りに生活しています。足りない分は借金をして、安価なパンや豆類を購入して空腹を満たす、あるいは食事自体を抜くなど、日々の支出を切り詰めて何とか暮らしています。

標高が1500メートルと高いアールサールの冬の寒さは厳しく、氷点下になる日もあります。冬期には冷たい雨水や雪がテントの周りを覆うことになり、テントで暮らす難民は冬の生活に大きな不安を抱えています。レバノンにはシリア内戦以降約100万人の難民が流入しました。人口460万人の同国政



アールサールのキャンプの積雪の様子。「灼熱の砂漠地帯」という典型的な中東のイメージからは程遠い。
(提携団体 URDA 提供)



キャンプ居住者への聞き取り調査の様子

府は難民への対応に頭を抱えており、今年からブロック等で補強されたテントの取り壊しを実施し、アールサールでもこれまでに1800世帯のテントが壊されました。取り壊された後、人びとは細い木の角材でできた枠組みの周りを薄いビニールシートで覆い、内側に断熱材を張り付け、地面に段ボールと絨毯を引いただけの簡易な建物に暮らしています。補強のなくなった心もとないテントで越す初めての冬に、彼らが少しでも安心して生活できるように、パルシクは今年も食糧や灯油の配布を行います。

2011年のシリア内戦の勃発から8年以上が経ち、アサド政権と対立する反体制派との間で政治的解決が実現していないため、国外に暮らす難民の多くはシリアに戻れない状況が続いています。ぜひ今後とも多くの方にご関心をもつていただき、シリア難民の人びとの日々の生活を支えるためにご支援をお願いいたします。

シリア難民支援 テントで迎える寒い冬、食料も不足…… 1	パルシクの民際協力とフェアトレード…… 4-5
パレスチナ 女性組合の組織化を目指して／シリア難民 シリア	フェアトレード 東ティモールのコーヒーと若者に夢を／スリランカの
難民の子どもたち、レバノンの公立学校へ／インドネシア 震	南と北の女性を繋ぐ「サリー・リサイクル・プロジェクト」／ちょっ
災後1年の中部スラウェシ…… 2	と寄り道♪お店からの便り…… 6
みんなふえ 新しい「向こう三軒両隣」に代わる繋がり／愛媛	パルシクのフェアトレード商品／セイロン紅茶の魅力～今日の気分
西日本豪雨被災者支援事業終了とこれから／東ティモール 栄	は、どの紅茶？～…… 7
養価の高い「ふりかけ」生産を目指して…… 3	パルシクからのお知らせ…… 8

■パレスチナ・ガザ地区 女性組合の組織化を目指して

ガザ地区での酪農を通じた女性グループの生計支援事業は、2年目を迎えています。ラファ地区の22の女性グループに加えて、隣県ハン・ユニス地区ギザン・ラシュワン村及びギザン・アルナジャー・ル村の7グループが活動に加わりました。両村は2014年のガザ侵攻以降、人びとが被害の大きかった東部国境地域から、より内陸部へと移り住んだために人口が急増し、支援が手薄となりました。現在29のグループが、羊の畜産、酪農(チーズ作り)、水耕栽培による飼料の自家生産に段階的に取り組んでいます。昨年からは活動している22のグループは既に子羊の販売を4回実施し、搾乳可能期間にはチーズ作りも行っています。

熱が入っています。(盛田)

この事業は日本NGO連携無償資金協力の助成と、皆さまからの寄付で実施しています。



組合登録を担当する労働省による説明会

ナエマ・アブルーリーさん
(ラファ地区アルシヨカ村)

家族の世話とともに、飼料生産を管理し、羊の世話のシフトをこなすので、時間管理をしっかりとしなければいけません。簡単ではなかったけれど、今では上手くやりくりしていますよ！初めて収入を得たとき、感動しました。1回目の収入で脱水機能付きの洗濯機を、2回目の収入で服や靴、生活必需品を買いました。それに、緊急用に貯金までしています！自分が自立していると感じます。活動を継続し、より発展させていくことが課題です。みんなが責任をもって全力で取り組んでいくことを願っています。



人びとの声

■シリア難民の子どもたち、レバノンの公立学校へ

レバノンのベカー県で、2017年から、公立学校に通うことのできないシリア難民の子どもたちを対象に、仮設の教育センターを提携団体と共に運営しています。ベカー県では、シリア難民の子どもは人数に対して公立学校の数が非常に少なく、学校に通いたくても時には何年も待たないと入学することができない状況が続いています。そのような状況を補うために、教育センターで基礎教育と芸術科目のクラスを行い、シリア難民の子どもたちがいずれは公立学校に編入できるように支援をしています。

■インドネシア 震災後1年の中部スラウエシ

2018年9月末に起こったインドネシア・スラウエシ島中部の地震・津波災害から、1年が経ちました。2800人以上の方が亡くなり、避難者が17万人にも上った大災害で、1年前の記憶が蘇る被災者が多いという理由から追悼式は控えられる、人びとの心の傷は計り知れないほど大きいのだと思うと心が痛みます。今もテントや半壊家屋での生活を強いられる人は多く、被災者が早く安心して暮らせるよう、引き続き仮設住宅建設に携わっています。子どもたちの居場所活動も継続中です。災害弱者と呼ばれる子ども

今年から政府の認定を受けた、就学前クラス(日本でいう幼稚園)を修了した子どもたちは、公立学校への入学資格を得られるようになります。修了証を受け取った83人の子どもたちは小学校に入学する日を心待ちにしています。これからも、未来を創るために大切な教育をより多くの子どもたちが受けられるように、パルシックは支援活動を続けていきます。(南)



就学前教育クラスの様子。基礎科目だけでなく、情操を高めるための芸術科目も実施。

の中でも障がいを持った子どもたちは支援対象から漏れてしまうことが多いことから、そうした子どもたちも参加しやすい活動の準備をしています。また、震災後、収入を得る手段を失った被災者が多く、今後は女性の生計支援も実施し、被災者が早く震災前の生活に戻れるように活動していきます。(飯田彰、松村多悠子)



インドネシア子どもの日イベントの様子

(レバノンとインドネシアでの事業はジャパン・プラットフォームからの助成と、皆さまからの寄付で実施しています。)

■みんなかふえ 新しい「向こう三軒両隣」に代わる繋がり

今の「みんなかふえ」を支えているのは主に地域のボランティアの皆さん。学生さんが子どもたちの学習を見たり、一緒に遊んだり。子ども食堂の調理は、近くに住む方々が交代で担ってくれています。献立は調理担当ボランティアさんと相談しながら決めていきます。

オープンして早1年数ヶ月。嬉しいことに、いつもボランティアとして手伝ってくれる方が、ご自身曰く「みんなかふえに影響されて」9月から葛飾区立石で子ども食堂を始めました。このように、人

2019年9月末をもって、愛媛での西日本豪雨被災者支援を終了しました。パルシックは2018年7月の発災直後から西予市、宇和島市を中心に、復興に取り組む被災地の皆さんと一緒に活動をする中で、多くのことを学びました。宇和島市では今年6月に、災害により海へ流出したごみを掃除する「吉田の海クリーンアップ大作戦！」を実施しました。県内外から約120名の方にご参加いただき、目標回収量を大きく超え、およそ2トンのごみを回収しました。皆さんの結束力を強く感じた1日でした。

現地ですべてを担当していた2人は、

と人とが繋がるツールのひとつである子ども食堂や居場所の輪が地域にますます広がり「向こう三軒両隣」に代わる人付き合いが形成されていく。私たちにとって新たなセーフティーネットになるのではないのでしょうか。是非一度、お近くの子どもの食堂にご参加ください！



「たまには夕食にサンドイッチもいいでしょ!」とのボランティアさんからのアイデアで、皆でロールサンド作り

(この事業は子供の未来応援基金と、皆さまからの寄付で実施しています。)

■西日本豪雨被災者支援事業終了とこれから

各々に地域の復興やコミュニティづくりにかかわる活動を続けていきます。筆者は、皆さんの温かさに触れ、この地域でできることを続けていきたいという思いから、10月から事業地だった西予市野村町へ移住し、復興やまちづくりに関わる活動を始めました。



120名が参加した宇和島市での海ごみ拾いの様子

柴田は、地域の復興と福祉に関わる活動をしていきます。(シーバース玲名)

(この事業はジャパン・プラットフォームからの助成と皆さまからの寄付で実施しました。)

■東ティモール 栄養価の高い「ふりかけ」生産を目指して

2019年1月から始まったふりかけ普及と食生活改善による栄養改善事業は、アタウロ島で建設中のふりかけ加工センターが完成間近を迎えています。9月には同島のビケリ村の5地域で、原材料となる干し魚、モリンガ、ゴマ、ナンキョウ、ウコンの食品加工についての研修を実施し、194名の女性たちが参加しました。また、原材料の買取価格を決めるため、アタウロ島漁業組合(BIATA)と、各集落の女性たちと話し合い、お互いに納得できる金額で合意することができました。ふりかけは、地元の食材を使い、東ティモールの人たちが気軽に買える安価なもの、また食べたいと思える美味しいもの、ご飯にかけるだけ、混ぜるだけで簡単に食べられるもの、という視点を大切にしなが、何度も試作を重ねてきました。栄養分析結果を経てレ



加工センターでの研修の様子

「ふりかけ」というユニークな商品を通じてビケリ村の女性たちの収入が増え、同じ東ティモールでも海から遠い地域に住んでいる人たちの栄養改善に寄与できることは、とても嬉しく誇らしいです。まずは安心安全で安定した品質の商品を作ることに専念し、市場も広げていきたいです。また、アタウロ島の海産物には様々な食材があるので、新しいふりかけの種類や商品を含めみんなで考えるのも楽しみです。

人びとの声

ロジータ・ダ・コスタさん (BIATA女性部メンバー)



右端がロジータさん

(この事業は日本NGO連携無償資金協力の助成と、皆さまからの寄付で実施しています。)

(伊藤淳子、林知美)

パルシクの民際協力とフェアトレード

パルシクの民際協力活動は、外国の占領や侵略、紛争、自然災害によって自立的な発展を阻まれた人びとが、暮らしを取り戻すことへの支援を重視しています。活動を通じてできあがった商品は、フェアトレード商品として販売し、生産者の暮らしを守ります。



レバノン (→ p.1, p.2)

シリア難民の子どもたちへの教育支援と越冬支援を行っています。



パレスチナ(ガザ、西岸) (p.2)

●西岸地区ナブルス県では、耕作放棄地への植樹を通じた地域の環境保全事業と、循環型社会のモデル形成事業を北アシーラで実施しています。ゴミ分別から地域住民の環境意識の醸成を行い、生ゴミからは有機ゴミを用いた堆肥づくりを、資源ゴミはリサイクル・リユースの促進を5年間の事業として行ってまいります。

●ガザ地区南部の農村では、酪農を通じた女性たちの生計支援を行っています。(→p.2)

スリランカ (p.6, 8)

●北部ジャフナでゲストハウスの運営、タミル文化を伝えるツアーの企画実施、タミル料理レストランを運営しています。また、北部ジャフナ県とムライティブ県の漁村の女性たちがサリーリサイクル製品を作っています。

●南部デニヤヤでは、紅茶の有機転換支援のほか、シンハラージャ森林保護区訪問、紅茶茶摘み体験などのエコツアーを企画実施しています。

★北部、南部へのツアーにご興味のある方は東京事務所までお問い合わせください。

シリア

シリア東部デリゾール市及び首都ダマスカスにあるヤルムーク・パレスチナ難民キャンプで、紛争により被害を受け生活が困難な国内避難民やパレスチナ難民へ食糧支援を行っています。夏の連日40度を超える気温の中、炊き出しの調理のために集まった女性たちは、「大変な環境ではあるが、集まって色んな話を出来るのは楽しい」とそれぞれの家庭が抱える問題を共有できる場としても、活動を楽しみに来ているようです。



マレーシア

ペナン州でマングローブの植林活動と環境教育に取り組む漁民グループ(PIFWA)の活動を支援しています。2015年からは、日本の高校生や大学生が現地で環境教育や多文化社会について体感して学ぶ「民際教育」にも力を入れています。



居場所づくり：みんかふえ(葛飾区) (→ p.3)



東京
フェアトレード
(→ p.6,7)

広報 (→ p.8)



インドネシア (→ p.2)
スラウェシ地震津波
被災者支援



東ティモール (p.3, 6-7)
有機コーヒーやハーブティーの生産者支援のほか、ふりかけ事業、アグロフォレストリー事業を実施中。



東ティモールのコーヒーと若者に夢を

10月14日～19日に開催された東ティモール・コーヒーフェスティバルのコーヒーの品評会には、全国各地から125のサンプルが集まりました。マウベシコーヒー生産者組合（ココマウ）からは22サンプルを出品し、マネトゥ村ルスラウ集落のハニー製法が85.11得点で第9位に入賞しました。

ルスラウ集落は、2004年からココマウの初代組合長を務めたヴィットリーノさんが率いてきたグループです。ヴィットリーノさんも歳をとり、グループ代表は弟たちに継いでいますが、今回の受賞は組合運営に頭を痛めながらも品質にこだわり続けたヴィットリーノさんの努力が評価されたようで、心から嬉しく思いました。

ココマウの創設メンバーは等しく歳をとり、彼らの子どもたちもすっかり成人しています。コーヒーで生計を立てていくことが厳しい状況はなかなか変えられず、成人した子どもたちは仕事を求めて村を出ていきます。ヴィットリーノさんの16人の子どもたちも、女の子2人を除いてみな首都に住んでいます。賞状と盾を手渡し、自分がいるうちは大丈夫というヴィットリーノさんが



全国9位の盾を手に喜ぶヴィットリーノさん(左)と弟のアルフレドさん

うっすらと涙ぐんでいるように見え、東ティモールのコーヒーを若者が夢を抱き続けられるものにしたい、と強く思いました。

東ティモールのコーヒー畑改善事業を、2019年11月から、JICA草の根技術協力パートナー型で開始します。畑の改善技術を学びながら、ココマウに若い世代を育てていきます。

(伊藤淳子)

Sari Connection

スリランカの南と北の女性を繋ぐリサイクルサリー商品



サリー製品作り手の女性たち

「柄がかわいい」「皺になりにくく、かさばらずに持ち歩ける」と好評のエコバッグに加え、この度、ヘアアクセサリー（シュシュ）が登場しました。



スリランカ南部の女性たちがご寄付くださった古着サリーを材料として、スリランカ北部に住む内戦や津波の被害を受けた女性たちが、色々な製品にリメイクしています。女性たちは、パルシクから提供されたミシンを使い、研修に参加して縫製技術を身につけました。できあがった製品は、“Sari Connection (サリーコネクション)”というブランド名を付けてコロポの洋品店や土産物店などで販売しています。その売上は北部の女性たちの収入になっています。

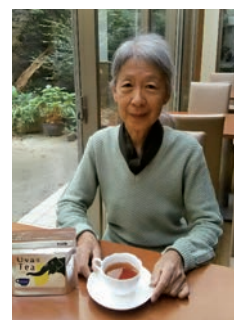
スリランカでは2019年4月におこった連続爆発事件の影響を受けて、海外からの観光客が激減し、現地でのリサイクルサリー製品の販売量も減ってしまいました。こんなときに製品を買い支えていきたい、日本で多くの方に魅力をお伝えできればと、パルシクは考えています。

同じものが2つとない特別なリサイクルサリー製品。普段のお買い物や贈り物におすすめです。



フェアトレードに心引かれて、2006年に自宅の敷地の一部にテントをかけて、小さな店を出したのが、バザールのようど好評でした。屋根の下にお店を移してからは場所も広くなり扱う品も増えたところ、「フェアトレードなら安心できる」と化学物質過敏症の方が来られるようになり、食品を多く置くように努めました。パルシクさんとの出会いはこの頃で、紅茶が美味しいと評判になりました。その紅茶のご縁で今回頂

いた、“Sari Connection”のスリランカのエコバッグが人気で、やはり女性はきれいなものが好きだと納得しています。リサイクル品とは思えない美しさで、皆さんエコバッグはお持ちでしょうが、色柄のよさが目を引いて、持ちたくなるエコバッグです。日本とスリランカと、女性同士の連携でポリバッグを追放し、きれいな海を次世代に渡す♪ フェアトレードならではの仕事です。ね。



店主の小川万里子さん



Mother Earth 店内

フェアトレード & エコロジー
Mother Earth

愛媛県松山市二番町3-7-14
TEL 080-4690-4703
営業時間：11:00-18:00
定休日：不定休

パルシクの
フェアトレード商品

*価格は税込です

カフェ・ティモール

粉/豆	各200g	各756円
ドリップタイプ	10g×10個	864円
リキッドコーヒー	1L	702円



コーヒーゼリー
280円



アールグレイ紅茶
羊羹

200g	864円
ミニ 80g	302円



ミニ
新登場



リサイクルサリー

エコバッグ	660円
シュシュ	374円



アロマ・ティモール

ツボクサ&ミント	各 30g	各 756円
月桃		
レモングラス		
アボカドリーフ& ライムリーフ		
ハイビスカス	20g	

アールグレイ紅茶/
ルフナ紅茶/ウバ紅茶

ティーバッグ	2g×25p	各756円
リーフ	100g	

セイロン紅茶の魅力

ウバ紅茶に有機 JAS 認証が付き、
パッケージをリニューアルしました！



パルシクのロングラン商品のウバ紅茶に有機認証がつかしました。
パッケージもリニューアルして、価格を見直しました。

パルシクは3種類のセイロン紅茶を販売しており、「同じスリランカ産の紅茶でも味に違いがあるの？」と、よく聞かれます。スリランカには7か所の主要な紅茶産地があり、茶葉の育つ環境によって、全く異なる風味となります。栽培地域から、ルフナ紅茶はローグロウン(低地)、ウバ紅茶はハイグロン(高地)と呼ばれています。

～今日の気分は、どの紅茶？～

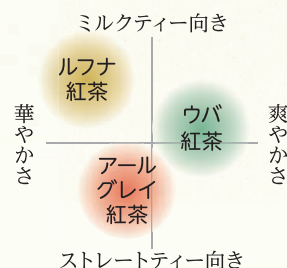
- ローグロウンのルフナ紅茶は、濃厚な味わいとほんのりした甘みが特徴です。鉄分が多く含まれる土壌で育つため、紅茶を淹れた時の水色(すいしょく)が赤く綺麗です。
- パルシクのアールグレイ紅茶は、ルフナ紅茶に天然のベルガモットオイルで着香しています。爽やかな香りとほんのり甘いコクが特徴です。
- ハイグロウンのウバ紅茶は、世界三大銘茶の1つに数えられ、その香り高さとかくが人気の理由です。

発酵茶である紅茶には、体を温める作用があると言われ、これからの寒い季節にぴったりです。気分に合わせて、3種類の紅茶をお楽しみください。

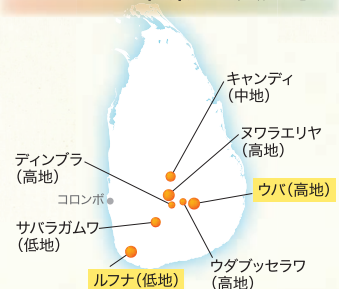
豊かな紅茶の世界～楽しみ方のご紹介～

- **ミルクティー** (通常の2倍の茶葉をご使用ください)
 ルフナ紅茶 牛乳と砂糖を加えてリッチなミルクティーに。
 アールグレイ紅茶 フルーツを添えて華やかなミルクティーに。
 ウバ紅茶 豆乳にきな粉を加え和のミルクティーに。
- **ストレートティーでお楽しみいただく場合**
 ルフナ紅茶 午後のおやつや食後のデザートとともに。
 アールグレイ紅茶 紅茶のもつ自然な甘みを感じて
 ウバ紅茶 和食と一緒に楽しみいただけます。

今日の気分は、どの紅茶？



スリランカ紅茶の7大産地



東京事務所イベント報告 (2019年6月下旬～12月)

主催イベント

7月11日	PARCICトーク Cafe インドネシア スラウェシ編
7月13日	PARCICトーク Cafe マレーシア編
8月26日	PARCICトーク Cafe パレスチナ西岸編
9月28日	映画『ソフラ』上映会
11月5日	スリランカ評価報告会
12月18日	レバノンインターン報告会

参加イベント

9月16日	自由が丘 エシカルフェスタ
9月28-29日	グローバルフェスタ JAPAN 2019
12月5-7日	エコプロダクツ展
12月8日	有機農業映画祭

登壇イベント

6月27日	明治大学小林ゼミナール(ロバーツ)
7月26日	ダッカ襲撃から3年 テロのない世界へ向けて(井上)
9月26日	Salesforce World Tour Tokyo Admin Theater (中村)
10月16日	インターンフォーラム(西森・勝沼)
11月4日	知らなかった! アジアンコーヒー入門(ロバーツ)
11月8日	緑の募金勉強会 パレスチナ事業報告(小林)
11月25日	亜細亜大学 現代教養特別講義(ロバーツ)
11月27日	りそなアジア・オセアニア財団 第7回環境シンポジウム(井上)

スリランカプログラムレビュー報告書の刊行

2004年から2018年3月まで、パルシックはスリランカ北部の内戦復興支援の一角を担ってきました。今年8月に、外部専門家とともにジャフナ県とムライティブ県の事業地を訪問し、事業関係者と事業対象者にインタビューを実施しました。パルシックが事業を実施するに至った経緯から、2009年の内戦終結以降に実施した事業内容、事業対象者の声、復興の現状、事業の評価をまとめた1冊を近日中に刊行します。ぜひお買い求めください。詳しくは、パルシック東京事務所までお問合せください。



2019年9月28日

ドキュメンタリー映画『ソフラ』上映と、ちょっとパレスチナ料理とおはなしの会を開催しました

食べ物と映画と人が好きな有志のメンバーとパルシックの共催で、映画『ソフラ』を観て、美味しいパレスチナ料理の軽食を食べ、レバノン訪問記を聞く会を開催しました。

映画『ソフラ』は、レバノンの難民キャンプで生まれ育ったパレスチナ難民のマリアムさんが、キャンプに暮らす女性たちが収入を得られるようケータリングビジネスの起業に挑戦する映画です。当日は80名ほどが参加されました。マリアムさんの明るさや行動力に勇気づけられるとともに、美味しい料理を通じてレバノンやパレスチナ難民を知る良い機会となりました。

レバノン訪問記をお話するソフラ上映実行委員長の相原木ノ実さん



2019年8月18日～24日 7日間の旅

美味しいコーヒーに出会う旅～東ティモール フェアトレード コーヒーツアー開催～

毎年恒例の東ティモールコーヒー生産者を訪ねる旅を2019年も開催しました。

今年は学生を中心とした参加者たちとともに、農村での生産者との交流やコーヒー収穫体験から加工の様子を見学しました。参加者からは「慣れない東ティモールの環境に体調を崩しながらも、とても思い出に残る、とても貴重な旅になった」との感想をいただきました。

パルシックはこれからも生産者との直接的な交流の機会を大切にし、フェアトレードの取り組みや東ティモールの生産者の暮らしなどを広く伝えていきます。

皆さまのご支援によって支えられています

パルシック会員募集

パルシックの趣旨に賛同し、総会等を通じてパルシックの活動に参加していただける会員、賛助会員を募集しています。

年会費

会員：10,000円
賛助会員：20,000円

入会ご希望の方は、東京事務所までお問い合わせください。

ご寄付のお願い

あなたの寄付で、パルシックの活動を支えてください。事業地の指定も可能です。みなさまの温かいご寄付をお待ちしています。

パルシックは認定NPO法人です。パルシックへのご寄付、募金は、確定申告によって所得税、法人税、相続税などの寄付金控除を受けることが出来ます。

●クレジットカードでの寄付 (Webサイトより)

<https://www.parcic.org/donation/donate/>

●郵便局からの寄付

郵便振替口座：00140-8-536957
口座名義：パルシック

●銀行からの寄付

三井住友銀行 神田支店(普) 2384136
口座名義：特定非営利活動法人パルシック



クレジットカード
寄付 QRコード

※銀行からお振り込みの際は、ご住所とお名前をご一報ください。